

～輝きの子育て～

社会の老化

この文章が載る頃はオリンピックの最中だと思います。アスリートの活躍をテレビの画面越しで応援しましょう。

最近読んだ本に「未来のドリル 河合雅司著」があります。そこに「社会の老化」についての記述があり、「なるほど」と納得出来るものでしたので紹介します。

少子高齢化と人口減少に拍車がかかった。従来の予想より四半世紀前倒しされる可能性が出て来たからである。

ワクチン敗戦国、デジタル化の遅れ、ザルのような水際対策等、国家としての衰えがはっきりしてきた。因みに豊かさの指標である購買力平価（ドル）では、30年間成長のなかった日本は2021年には韓国に抜き去られると予想されている。先進7ヶ国の中で最も低い地位におり、もはや先進国の看板をおろす時になっている。原因として「社会の老化」がある。すべての年代の人々の思考を「無難な道」を選ばせる傾向がより強くなり、挑戦する気力を吸いとってしまう社会になっている。出産数の減少が直接社会を崩壊へ導くとすれば、「社会の老化」は真綿で首を絞めるようにじわじわと内側から破壊させる。2020年高齢者（65歳以上）の数は3607万人で高齢化率は28.7%である。分母を20歳以上の消費世代にすると34.4%となり3人に1人が高齢者である。コロナ禍で高齢者の消費支出は大きく縮んでいる。高齢者のみならず若い世代も「こんな時だから…」とマイナス情報を集めて「やらない理由」を探すようになった。少子化に加え、この動向は日本経済に相当のインパクトを与えている。コロナ禍という巨大なストレスが社会を一気に老けさせてしまった。

知らず知らずのうちに社会全体の思考や発想、行動が「守り」に入るようになる。「守り」に入ればやがて社会全体の活力が損われ、国家は衰退の道を歩むこととなる。「社会の老化」が恐ろしいのは、若い世代を「諦め」の境地へ誘うことである。

コロナの感染弱者である高齢者の命を守ると共に、若い世代がアクティブに活動することの両立が為政者の役割なのだが施策がなかった。高齢者の命が大切だから若者もこうせよというものだった。どんな時代でも10代、20代の若いエネルギーが新風を吹き込み、社会を変えて来た。「老いた社会」では若い世代に従来の価値観に合せさす圧力をかける。これでは社会はマンネリに陥らざるを得ない。では、どうするかとなると、老人の小生には知恵がない。すくなくとも政治の世界に若い人を送り込むが必須である。選挙制度を変えることが必要だが、誰もやらないだろうと気が滅入る。

小さい時から「挑戦する気持ち」を養うことや偉人伝などに「尊敬する人」を持つことがアクティブな人を育てることになると思う。

既に遅いかも知れないが、アクティブな若者を応援するのみだ。

片野 英司